緑のボランティア通信

2023.10.1　NO.87

特集！ 里山ボランティア育成講座
「かわさきの森づくり」

川崎市の北西部の緑地はかつて里山と呼ばれていました。定期的な管理が行われ、様々な動植物が生息する豊かな環境が保たれていました。しかし、都市化の進展等により里山は減少の一途をたどりました。そこで、川崎市公園緑地協会では、地域の緑地を知り、実際に作業を体験しながら保全整備を進める「かわさきの森づくり」を開催しています。「思いっきり体を動かしたい」「団体で活動しているので体験を積み重ねて腕を磨きたい」「日頃、忙しいので単発で参加したい」等の要望に対応した講座となっています。新しい仲間と、川崎のみどりを守り、育てる活動を始めてみませんか？

実践編　かわさきの森づくり作業の流れ

作業打合せ

体操

竹林整備

ササ刈り

下草刈り

コナラの伐採

道具の手入れ

ミニ講座

講義編　講義内容

川崎市「緑の基本計画」、里山の自然環境と管理手法、野外活動の安全管理と救急法、道具の使い方と手入れの仕方、ボランティアの心得、グループワークなど

かわさきの森づくりの詳しい情報や、申込フォームはこちらから

かわさき緑のイメージキャラクター
緑の妖精 グリンピー

目次

特集！里山ボランティア育成講座「かわさきの森づくり」	1
川崎市からのお知らせ「全国都市緑化かわさきフェア開催」	2
活動団体訪問・自己紹介コーナー	3
いそうろう植物のヒトリゴト	4

川崎市からのお知らせ「全国都市緑化かわさきフェア開催」

全国都市緑化かわさきフェア開催

花と緑の祭典

秋 令和6年 10月19日(土)～11月17日(日)　春 令和7年 3月22日(土)～4月13日(日)

全国都市緑化フェアは、市民一人ひとりがみどりの大切さを知ると共に、みどりを守り、たのしめる知識を深め、みどりがもたらす快適で豊かな暮らしがあるまちづくりを進めるため、昭和 58(1983)年から毎年、全国各地で開催されている「花と緑の祭典」です。

川崎の歴史、資源、強み等を活かし、改めてみどりについて市民の皆さまと一緒に考え行動することで、川崎の新たなみどりの文化を醸成し、誰もが住み続けたいまちへとつなげていく大きなチャンスであると考え、令和６（2024）年に迎える川崎市市制 100 周年の象徴的事業として「全国都市緑化かわさきフェア」を開催し、川崎の多様なみどりを全国に向けて発信していきます。

Green For All KAWASAKI 2024

植物育成・管理のボランティア募集をします！！

緑化フェアの主役といえば、色とりどりの美しい花と緑。
その花を育てる・お世話するボランティアになってみませんか？
研修もあるので安心してご参加ください。

植物育成・管理の内容

市内の小中学校などでの花苗育成のサポートなど、フェア開催前からの会場づくりや、かわさきフェア会場の植物維持業務サポート（植替え・花がら摘み・草刈り等）に携わっていただく予定です。

募集期間：１０月下旬～１月上旬

対象：１５歳以上（中学生は除く）。
高校生又は１８歳未満は保護者の同意が必要。
応募先など詳しい情報は緑化フェア公式 HP にて。

↑公式 HP はこちら↑

生田緑地　「歴史・文化」×みどり

等々力緑地　「体験・体感」×みどり

富士見公園　「多様性」×みどり

かわさきフェアでは会場毎にテーマが異なり、
多様な植物と触れ合える貴重な体験ができます。

Colors, Future! 川崎市

COLORS, FUTURE! ACTIONS KAWASAKI 100th

２０２４年、川崎市は市制１００周年を迎えます。

Green For All KAWASAKI 2024

緑の活動団体訪問・自己紹介コーナー

エンゼル桜会（2022年設立）

活動場所　久本３丁目公園（高津区久本３丁目４）・久本おしどり公園（高津区久本３丁目５）
交通案内　JR南武線「武蔵溝ノ口駅」及び東急田園都市線「溝の口駅」から徒歩10分

当会は高津区にある久本３丁目公園・久本おしどり公園の公園緑地愛護会として令和４年より活動を始めました。そのきっかけは、マンションが多い地域住民のコミュニケーションについて、区役所の地域ケア推進課に相談し、近くの公園で花を植え育てる事を提案いただいたことです。それから高津区役所道路公園センターの方々にご協力いただいて公園緑地愛護会に登録し活動を始めました。当初は雑草取りや土を耕したり等で、ようやく３ヶ月後に花を植えることができました。

当会の定期活動は月１回で、夏には近くの保育園の先生と向日葵の種まきや水まきもしています。また、今年より近所の方々とのコミュニケーションとごみ削減になると思い、フラワードライブ・ロス（自宅で育てられなくなった花を公園花壇で一緒に育てる）を始めました。

これからも、地域のコミュニケーションの場としての活動を続けていきます。

（菅原 隆一）

島田生長の森緑地管理運営協議会（2016年設立）

活動場所　島田生長の森緑地（麻生区王禅寺東４丁目８－１）
交通案内　川崎市バス・小田急バス「白山神社」バス停より徒歩1分

島田生長の森緑地は２自治会とマンションの境界となっている約２００mの緑道と、その片側南側面に上がる斜面地からなる緑地で、シラカシを中心とした常緑樹の高木が多く夏も涼しいです。当会設立のきっかけは、当時盛んだった麻生区里山ボランティア事業です。それは日常の保全管理団体がない、あっても管理が行き届いていない川崎市の公園や緑地を毎月１回市民ボランティアと麻生区が協働で地域住民と共に整備する事業でした。当時の生長の森は40数年前にできた時から“自然の森を造るため手を入れない”という川崎市の方針のため、長く昼なお暗きといった状態でした。人家やマンションが金網１枚で緑地に接しているので、苦情も入っていたようでしたので、市も方針を変えたらしく、ここに計４回その事業が実施されました。整備されたその後、地域自治会による維持管理が望まれましたが、高齢化で引受け手がなく、私を含めた有志５名で管理運営協議会を発足させました。当時は２自治会による愛護会があったのですが、清掃中心の愛護会ではなくもう少し踏み込んだ整備の必要性を感じたからです。なお、２自治会には愛護会を解散して新たに協議会の会員として年３回の清掃を引き続きお願いしました。発足してすぐ翌年の５月、今までに見なかったというキンランの花が現れたのは感激でした。周辺住民にはここの緑が目障りでなく、ありがたい緑になってくれるように、通る人には安心して通れるように保つことが私たちの目的です。そのために公園緑地協会指導によるツツジ剪定講習会開催や道路公園センターへの危険木の連絡など行政と連絡をとりながら毎月２回の定例緑地整備を行っています。

（奥山 玲子）

いそうろう植物のヒトリゴト

知らず知らずのうちに花壇に入ってくる、いそうろう植物たち。
本コラムでは植物の特徴をふまえながら、彼らの「独り言」に耳を傾けていきたいと思います。

“藪を枯らす”
ほど成長するから、
ヒトからは嫌われ者。
でもいいんだ。昆虫からは
人気者だからね!

05 「ヤブガラシ」
(ブドウ科・ヤブガラシ属)

Causonis japonica

北海道から南西諸島まで広く分布するツル性の多年草。地下茎を伸ばしているところから芽を出し、巻きひげで絡みつきながらツルを伸ばして、長さ２～３ｍになる。ヤブガラシ（藪枯）の和名は、他の植物を覆うように成長し、覆われた植物は光を得られなくなって枯れてしまうことがあるため、名づけられた。花壇の管理では真っ先に除草の対象となる植物だが、ヤブガラシの花は、蜜の分泌量が多く、ハエ、ハナアブ、アリ、ハチなど様々な昆虫に好まれている。

お絵描きしたいのに、
青い絵の具が
無くなってしまった？
なら、僕の花びらを
一枚あげるよ。

06 「ツユクサ」
(ツユクサ科・ツユクサ属)

Commelina communis

日本全国の畑の隅や道ばたなど低地のいたるところに生える一年草。朝咲いた花が昼にはしぼむ性質から、朝霧を連想させると「ツユクサ」と名付けられたという説がある。花期が６～10月と長いことや、若芽や若葉、花が食用にもなること、染料になることなどから、古く万葉の時代から親しまれてきた植物である。中でも、日本最古の染料の１つと言われており、花弁に触れると破れて色素が飛び出してくるほど、簡易に色素を抽出できるため、青系の色を作り出すために不可欠な植物だったとされている。

ペンネーム：きよすけ
（造園家・植物研究家）

植えてもいないのに生えてくる道ばたの小さな雑草たち。「雑草」とひとくくりにされてしまいますが、
そんな“いそうろう”たちにも一つ一つに名前と生態があります。このコーナーではそんな植物たちをご紹介していきます。
新しく始まったこのコーナーのご意見、ご要望をお寄せください。参考にさせていただきます。

発行・編集
(公財)川崎市公園緑地協会　緑の推進支援係
〒211-0052　川崎市中原区等々力３-12
電話　044(711)6631　FAX　044(722)8410
https://www.kawasaki-green.or.jp